



東秩父村では
空き家の活用が課題となっている。

現在、村の空き家の数は約150軒。

空き家を放置すれば、倒壊や景観悪化、不法侵入などのトラブルにつながりかねない。

そのため、空き家バンクや補助金など、空き家対策のために様々な取組みを進めてきた。

そうした中、村の空き家を活用して素敵なお店をオープンした「八間屋」「薪火食堂アジャテ」「未来図」の方たちを取材したところ、地元の人たちとの出会いと繋がり、感謝の気持ちを語ってくれた。



01 八間屋 -Yamaya-

村でお店を開くことができて
「幸せでもあり、感謝の気持ちでいっぱい」です

同級生3人でリサイクルショッピング＆イタリアン食堂をオープン！奥沢地区でリサイクルショッピング＆イタリアン食堂を切り盛りしているオーナーの山口さん、シェフの池田さん、お店で使う野菜を作っている大塚さん。奥沢地区の人々とイチからお店を作り上げオープンしました。

東秩父村でお店を始めたのは、たまたま良い空き家の物件が東秩父村にあつたことがきっかけでした。しかし、物

件は見つかったものの、当時は全然お金がなく、手作りでお店づくりを始めました。とはいっても、私たちは素人なので作業に苦戦していました。ただ、気づけば内装や設備関係まで、たくさんの方のご協力のおかげでお店ができ上りました。

特に木材加工では大変助けていただき、近所の方にお店のほとんどの木材を製材していただきました。

今思えば、皆さんのご協力が無かつたら、このお店は出来なかつたかもしれません。

他の場所から来た私たちを温かく迎え、受け入れてくれた地域の皆さんのおかげで、今までお店を続けることができています。皆さんには本当に感謝しています。

八間屋という店名には、「八」の字のような末広がりな空間になるように意味が込められています。これからも皆さんからいただいた恩を忘れずに、八間屋を末永く続くお店にしていけるよう頑張ります！